

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0644
施設名	敬愛フレンド保育園
施設所在地	八王子市上柚木3-7
法人名	社会福祉法人敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

大発見！自然のひみつにせまる

<テーマの設定理由>

園の周辺には豊かな自然環境が広がっていて、園庭には実のなる木・草花や落ち葉やどんぐりなど、季節ごとの自然物に触れる機会に恵まれている。また、生き物も飼育し興味を深める姿が見られた。

散策の中で「形が違う」「色が違う」といった気づきや興味を示す姿が多く見られ、自然への関心の高さがうかがえる。こうした発見を一時的な体験で終わらせるのではなく、なぜ違いがあるのかを考えたり、調べたりする探究的な学びへとつなげたいと考え、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

4月 実のなる木を目の当たりし興味を示す。
5月 梅もぎ体験
6月 ジャムづくり・ジュースづくり
9月 生き物観察・生き物に出逢おう
10月 どんぐりを散策場所で発見。場所によって形や大きさが違うことに気付く。
11月 光をあててみたり、虫眼鏡や電子顕微鏡を使って拾ってきたどんぐりや葉を観察。
12月 気づきをもとに図鑑を見る機会が増えたり、どんぐりマラカスを作ったり活動が展開される。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・実際に木の実に触れられるよう園バスを手配
- ・ジャムやジュースづくりの容器や栄養士との連携
- ・フィードバックに活用するパソコンを増やした。
- ・自然物が多く落ちている場所を事前に調べ、採集しやすい環境を選定した。
- ・拾ったどんぐりをじっくり観察できるよう、虫眼鏡を準備した。
- ・表面の模様や違いを詳しく見られるよう、電子顕微鏡を用意した。
- ・光に透かしたり並べたりして観察できるよう、ライトニングテーブルを設置した。
- ・暗い場所や細かな部分を照らせるよう、ライトを準備した。
- ・自由に試したり比較したりできるよう、探索・観察コーナーを整えた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

園外で実際に木の実に触れられるように園バスを手配し、ジャムやジュースづくりでは容器を準備し、栄養士と連携しながら活動を進めた。園外散策では、自然物が多く落ちている場所を事前に調査して、採集しやすい環境を選定した。また、拾ったどんぐりをじっくり観察できるように虫眼鏡を準備し、表面の模様や違いを詳しく見られるよう電子顕微鏡を用意すると、表面に細かな模様があることや、虫が食べたと思われる小さな穴があることを発見した。観察を通して、「どんな虫が食べるのかな」「中には何がいるのかな」とさらに興味を広げ、自然物への関心や探究心を深める姿が見られた。さらに、光に透かしたり並べたりして観察を楽しめるようライトテーブルを設置し、暗い場所や細かな部分を照らせるライトも準備した。子どもたちが自由に試したり比較したりできるよう、探索・観察コーナーを整備したほか、また、活動後の振り返りやフィードバックに活用できるよう、パソコンの台数も増やした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

園庭の実のなる木や絵本をきっかけに「やってみたい」と自分の思いを言葉で伝える姿が見られ、活動への期待を膨らませていた。活動中は、地面に落ちている自然物を見つけると「あった!」「こっちにもあるよ」とお友達同士で知らせ合いながら、一緒に探すことを楽しんでいた。どんぐりに関しては、見比べる中で、「これはおおきいね」「こっちはほそいね」など、形や大きさの違いに気付き、発見したことを互いに伝え合う様子も見られた。

また、自然物を電子顕微鏡で観察すると、「せんがいっぱいある!」「あながあいてる!」と驚きの声を上げ、目で見ただけでは気付かなかった細かな模様や変化に興味を示していた。穴のあいたどんぐりを見て、「むしがたべたのかな」「どんなむしかな」と疑問をもち、虫にも関心を広げる姿があったため、保育者と一緒にどんぐりを食べる虫について図鑑や写真を用いて調べた。「このむしかな?」「こんなちいさいむしがたべるんだね」と友達同士で考えを伝え合いながら、自然物と生き物とのつながりにも興味を深めていた。保育者が「どうしてあながあいたのかな」「ほかにもたべるむしはいるかな」と問いかけることで、お子さまたちはさらに考えを広げ、探究心を高めていた。

このことから生き物にも関心をもち、動物園や科学館へ見学へいくなど自然への関心が大木に広がっている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の活動を通して、お子さまたちは自然物に興味をもち、自分で見つけたり比べたりしながら、友達と発見を共有する姿が多く見られた。特に、どんぐりの形や大きさの違いに気付き、電子顕微鏡を使った観察では、普段目に見えない細かな模様や穴を発見することで、より探究心を深めていた。また、「なぜ穴があいているのか」という疑問から虫への関心につながり、図鑑や写真を用いて調べることで、自然物と生き物との関わりについても興味を広げることができた。保育者の問いかけにより、自分なりに考えたり友達と意見を伝え合ったりする姿が見られ、主体的に学ぼうとする姿勢につながっていた。この経験をきっかけに、生き物や自然への関心がさらに広がり、動物園や科学館への見学など、実際に見て触れる体験へとつながっていき、振り返りの環境を整えることでお子さまの生の声がさらにたくさん聞かれるようになり、保育者の準備や考え等の環境設定の重要性も改めて感じる活動となった。